

豊岡市記者配布資料

| 年月日 | 部課名 | 電 話 | 責任者 (役職名) |
|-------------------|----------------|---------------------------|--------------|
| 2023年 5月10日(水) | 日高振興局 地域振興課 | 0796-21-9052 (内線 5405) | 池内章彦 (課長) |

(件 名)

2022 植村直己冒険賞授賞式・記念講演会の開催

(内 容)

2022「植村直己冒険賞」受賞者の野村良太さんの授賞式および記念講演会を次のとおり開催します。

なお、受賞者の発表は2023年2月6日に実施済です。

1 日 時 6月3日(土)午後1時30分～(開場：午後0時30分)

2 場 所 日高文化体育館(日高町祢布 954-6)

3 受賞者 野村良太さん(28歳、北海道札幌市在住)

4 式典の概要

(1) 授賞式

ア あいさつ 豊岡市長
イ 冒険賞の授与 メダル、楯および副賞(100万円)
ウ 選考評 選考委員 山口香さん(筑波大学体育系教授)

(2) 受賞記念講演会 「(仮)積雪期単独北海道分水嶺縦断」

5 実施方針

- (1) 観覧定員 600名程度を予定しています。
- (2) 手話通訳を実施します。
- (3) 事前予約制で一時保育を実施します。
- (4) 授賞式・記念講演会の様子を youtube で同時配信します。
<https://youtube.com/live/H0W0C12PorU?feature=share>

≪問合せ≫ 日高振興局地域振興課
担当：山川
TEL：0796-21-9052(直通)

失敗から多くを学び、自分の弱さを自覚しながら、
やりたいことに真摯に向き合った冒険

前人未踏

受賞者
野村

登山ガイド
良太

北海道分水嶺積雪期単独縦断

「植村直己冒険賞」

世界的な冒険家：故植村直己氏の精神を継承し、日本や世界各地で人間の可能性に挑み、未知の世界を切り拓くとともに、人々に夢と希望そして勇気を与えてくれた創造的な行動（業績）をした人（団体）に贈る賞です。



受賞者
野村 良太 (28)
北海道大学ワンダーフォーゲル部で登山を始める。
2019年積雪期の知床半島全山単独縦走。
日高山脈全山単独縦走。
いずれもノンデポ・ノンサポートで達成。
2020年厳冬期表大雪十勝連峰縦走。
大学卒業後に会った『北の分水嶺を歩く』
(工藤英一著・山と溪谷社)
書から着想を得て、北海道分水嶺（総距離670km）
の単独縦走を計画。
2022年2月から4月にかけて、
史上初の「北海道分水嶺積雪期縦断」
を単独で達成した。

授賞式・記念講演会 植村直己冒険賞



入場無料

日時 2023年6月3日(土)
13:30～(開場12:30)

場所 日高文化体育館
豊岡市日高町祢布954-6

※当日は、手話通訳あり
※一時保育あり
※会場へお越しになれない方は、オンライン配信をご覧ください

主催 豊岡市

問合せ 豊岡市日高振興局 tel:0796-21-9056 mail:hidaka-chiiki@city.toyooka.lg.jp

2022 植村直己冒険賞受賞者

分類 : 山 冒険状況 : 完了 個人・団体 : 個人

受賞者 氏名 野村 良太 (のむら りょうた)
年齢 28歳 1994年 (平成6年) 生まれ
住所 北海道 札幌市

実施の概要 冒険名 北海道分水嶺積雪期単独縦断
実施期間 2022年2月26日～2022年4月29日

趣 旨 北海道大学ワンダーフォーゲル部で登山を始める。2019年積雪期の知床半島全山単独縦走。日高山脈全山単独縦走。いずれもノンデポ・ノンサポートで達成。2020年厳冬期表大雪十勝連峰縦走。

大学卒業後に出会った『北の分水嶺を歩く』(工藤英一著・山と溪谷社) 書から着想を得て、北海道分水嶺(総距離 670km)の単独縦走を計画。2022年2月から4月にかけて、史上初の「北海道分水嶺積雪期縦断」を単独で達成した。

冒険内容 北海道分水嶺単独縦断は、北海道最北端の宗谷岬から南端の襟裳岬まで分水嶺を辿るルートで、宗谷丘陵、北見山地、石狩山地、日高山脈を北から南まで一つなぎに踏破する。最大 45kg のザックを背負っての縦走は、ホワイトアウトや風速 40m/s の猛吹雪、一晩の積雪が 50cm に達することもあるなど、気象条件も厳しく、国内で残されていた最難関の縦走に違いない。縦走コースを何回かに分けての到達者はいたものの、一つなぎでの挑戦は、単独・パーティー問わず、未だかつて成し得た者はいなかった。

<期間>2022年2月26日(宗谷岬出発)→2022年4月29日(襟裳岬到着)

<行程>約 670km

<手段>あらかじめ4カ所の山小屋に食料を置いておき、それらを回収しながらゴールへ向かう。稜線をアイゼン、スキーを使い、1日当たり 3500 キロカロリーの食料をザックに詰め込み、道中ビバークしながら進んでいく。

<北海道分水嶺日程>

- 2022年2月26日 宗谷岬出発
- 2022年3月11日 ピヤシリ山避難小屋(210km 地点)
- 2022年3月18日 天塩岳避難小屋(314km 地点)
- 2022年3月28日 北海道大分水点
- 2022年3月31日 ヒサゴ沼避難小屋(424km 地点)
- 2022年4月4日 トムラウシ山
- 2022年4月5日 十勝岳
- 2022年4月7日 佐幌山荘(481km 地点)
- 2022年4月19日 カムイエクウチカウシ山
- 2022年4月21日 ペテガリ岳
- 2022年4月29日 襟裳岬到達

工夫・独創性

2021年にも挑戦していたが、トラブルにより途中撤退している。撤退の経験を活かし、デポの数、日数の調整など計画を十分に練り直した。

また、行程のほとんどが山道として整備されておらず、雪が解けてしまうと藪漕ぎを行わなければならない。そのため、積雪が十分な時期にスタートさせ、技術的に難易度が高い場所を後に回す南下ルートで選択した。

綿密な計画と不屈の精神により、前人未到の挑戦を成し遂げた。

<計画立案にあたり検討した事項>

これまでの経験則をベースに下記の5点について綿密に計画を立案した。

①確保すべき日数

装備の重量なども考慮しつつ、悪天候による遅延も想定し64日とした。

②1日あたりの食料

1日あたり必要と考えられるカロリーを基本に、天候による体力消耗も想定した。

③出発時期

ほぼ未整備のルートを進むため、鬱蒼とした藪に覆われる夏期を避け、反対に積雪が十分な時期を選定し、④を出発地点として逆算し2月26日とした。

④出発地点

技術的難易度を考慮し、雪の落ち着く後半に日高山脈を進む「南下」ルートとし、出発点は宗谷岬とした。

⑤デポ（予め食料を運び入れ保存しておく場所）の数

背負える重量を考慮しつつ、①及び②を基に割り出した。

冒険経歴

- 2014年4月 北海道大学ワンダーフォーゲル部入部
- 2018年3月 北海道大学ワンダーフォーゲル部卒部（62代主将）
- 2019年2月 積雪期単独知床半島全山単独縦走（海別岳～知床岬）12泊13日
- 2019年3月 積雪期単独日高山脈全山単独縦走（日勝峠～襟裳岬）16泊17日
- 2020年1月 厳冬期表大雪十勝連峰縦走（層雲峡～原始ヶ原）11泊12日
- 2021年3月 積雪期単独北海道分水嶺縦断計画途中敗退
- 2021年4月 グレートトラバース3日高山脈大縦走撮影サポート
- 2021年6月 グレートトラバース3大雪山系大縦走撮影サポート

その他

【資格】（公社）日本山岳ガイド協会認定 登山ガイドステージII

【受賞歴】令和元年度北大えるむ賞（2019年）

日本山岳・スポーツクライミング協会山岳奨励賞（2022年）

【掲載紙】「岳人」2019年8月号史上初ワンシーズン知床半島・日高山脈積雪期単独全山縦走（ノンデポノンサポート）

「岳人」2020年4月号 厳冬期大雪山系十勝連峰縦走

「山と溪谷」2021年12月号 教えて！雪山の先輩たち特集

「山と溪谷」2022年7月号 積雪期単独北海道分水嶺縦断 ※主なもの

【テレビ】NHK 地上総合「白銀の大縦走北海道分水嶺ルート670キロ」（2022年12月30日放送、2023年1月4日再放送）

NHKBS プレミアム「白銀の大縦走…90分拡大版」（2023年1月21日放送）

【WEB】FaceBook <https://www.facebook.com/profile.php?id=100006287894697>

YamaReco <https://www.yamareco.com/modules/yamareco/userinfo-205456-prof.html>

ヤマケイオンライン「積雪期単独北海道分水嶺縦断記」連載中（2022年11月～）